



目次

横浜市立大学医学部創立70周年記念誌

挨拶

横浜市長	林 文 子	1
理事長	二 見 良 之	2
学長	窪 田 吉 信	3
医学部長	齋 藤 知 行	5
初代俱進会会長	荒 井 保 男	6
俱進会会長	遠 山 慎 一	7
編集にあたって	井 出 研	9

一. 開港から市大医学部に至る道のり

1) 横浜市大医学部に於ける医学史研究の先駆者達	11
2) ペリー来航・横浜村から横浜開港へ	15
3) シモンズと十全醫院	17
4) 黎明期の横浜を愛した米人医師エルドリッジ	21
5) ウイリスと横浜軍陣病院	24
6) 横浜に近代医術をもたらしたヘボン	28
7) 幕末のヨコハマの外国人専用の病院について	31
8) 横浜市立大学病院の成立	34
9) 浦舟町の医学部校舎(旧三吉小学校)	40
10) 福浦移転後の歩み	42
11) 横浜市立大学医学部医学科同窓会俱進会と横浜総合医学振興財団	47
○横浜市立大学医学部の歴史(綴込み)	

二. 横浜市立大学の今後

三. 横浜市立大学病院の原点と早矢仕有的

四. 「俱進会たより」からみた医学部の歴史 1994年～2016年

1) 病院教授の設置と教授選考問題	71
2) 患者取り違え事故	72
3) 市民総合医療センターオープン	73
4) 医学部創立60周年記念事業	74
5) 法人化問題	74
6) 学位審査謝礼問題	75
7) 学生定員90名に	76
8) 文部科学省の大型プロジェクトの獲得	76
9) 先端医科学研究センター新研究棟開所	77
10) 電子カルテの導入	77
11) 次世代臨床研究センター開設	78

五. 医学部内の各種モニュメント

1) 病理解剖記念碑(学びの台)	79
------------------	----

2) シモンズ博士顕彰碑	80
シモンズ記念碑設立まで	80
シモンズ記念碑設立記念講演を終えて	83
3) シモンズの墓	84
4) ヘボン博士肖像とヘボン術中図	86
5) ヘボンホール	87
6) ヒポクラテスの樹	89
7) ヒポクラテスの箴言	90
8) 死者の教え(ことば)	91
9) 実験動物慰霊碑	91
10) 健民厚生碑	92
11) 同愛記念病院の銅板	93
12) 横浜市立大学医学部附属高等看護学校記念碑	94
13) ナイチンゲールの立像	95
14) 宇宙の塔	96
15) Fountain	97
16) 風景の中の譜	97
17) 倶進会のシンボルマーク	98
18) 倶進会の医学教育理念	98
19) 倶進会員証	99
20) 横浜総合医学振興財団シンボルマーク	99
21) 横浜医学会記念牌	100
22) ペーパーウエイト	101
23) 校章	101
24) 病院100年の歩みと病院章	102
25) 医学専門学校、医科大学、医学部と続く襟章各種とバックルなど	103
○横浜市立大学医学部・医学部附属病院(福浦)配置図(綴込み)	
○横浜市立大学附属市民総合医療センター(浦舟)配置図(綴込み)	

六. 「医学部発祥之地記念碑」建立の経緯

1) 記念碑	106
2) 題字異聞	109

七. 倶進会の名称、命名について

八. 倶進会蒐集(現在 横浜市立大学所蔵)の古医学資料写真集

九. 編集後記

十. 付録

1) 年表	152
2) 医学部創立70周年記念事業 募金協力者	155

編集にあたって



井 出 研 (第5代倶進会会長)

謝 辞

先ずはじめに此の度、医学部創立70周年の記念事業とその一環である記念誌の発刊にあたり、すべてが滞りなくできたことに倶進会員をはじめ学内、学外の関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。また横浜市長、公立大学法人横浜市立大学理事長、横浜市立大学学長、横浜市立大学医学部長から御挨拶を戴いたことに深甚の感謝を捧げるものであります。

1. 開港から市大医学部に至る道のり

先ず、横浜開港から十全醫院を経て市立大学病院および医学部へ…との変遷を概観する。茲でお断わりしなければならないのは、この章の大部分は市大第二外科同窓会誌であり平成14(2002)年に刊行された「温故知新」および三杉名誉教授の著書「ハマの医学校物語」より許可を得て抜粋掲載させて戴いた。借用、引用、抜粋させて戴いた理由は両原著が同門会員が対象であったり、それに類する出版であったために改めてここで御披露させていただく価値は充分にあると思われる。とくに後半の横浜総合医学振興財団の初代理事長として病理学教授退任後は心血を注がれ研究助成を唯一の目的とした財団の成り立ちや財団を支える同窓会である倶進会との関係についても言及されている。

2. 横浜市立大学の今後

二度目の重責を務められる五嶋良郎副学長に将来を展望して戴いた。

3. 横浜市立大学病院の原点と早矢仕有的

十全病院の始祖ともいえる横浜病院が早矢仕有的によって明治4(1871)年に設立されてから平成28(2016)年をもって145年になる。現在までの歴史をみると昭和17(1942)年に70周年記念絵葉書を刊行している。これを受けて来るべき節目には何らかの行事が企画されると思われるのでこの点について遠山会長に一筆御願います。

4. 「俱進会たより」からみた医学部の歴史

かつて「俱進会たより」100号記念として平成16(2004)年にすでに総括してあるが、続編として市大医学部の動向を「たより」の編集委員の目からみた医学部の小史。

5. 医学部内の各種モニュメント

医学部内に、また両病院内外にあっても全く目にとめることがなかったり、知る人ぞ知る存在であったりする記念碑、モニュメント、壁に刻まれた文字、果ては記念品のような小物に至る諸々の探訪・紹介をする。またこの項でも「草創のとき」、「ハマの医学校物語」等に紹介されているので、適時引用させていただく。

6. 医学部発祥之地の記念碑建立の経緯

跡地問題から医学部移転の問題に発展し…。医学部連絡会議の活躍を忘れずに。

7. 俱進会の名称、命名について

聞くところによると“俱進会”の名をつけた会は全国に10機関位存在するらしい。横浜の専売とっていたが…。

8. 俱進会蒐集(現在横浜市立大学所蔵)の古医学資料写真集

俱進会で広く関係者に呼びかけて寄贈を戴いた古医療機器や資料の写真集である。平成6(1994)年以降、ヨコハマにはない医学資料館の建設を目指して蒐集を始めたものであり、従来から市大センター病院研究棟の一室を許可を得て保管室にあてていたが、学生数の増加による更衣室の需要から明け渡すことになり、現在は資料のすべてを横浜市立大学が所蔵しており、市大情報センター(旧図書館)に保管されているものである。一部はアジア・アフリカ会議開催の一端として長浜の野口英世細菌検査室に市の委託という形で展示されている。また、一部は分類されて横浜市都市発展記念館に寄託され保管されている。